「心と身体の自由な暮らし」

～子どもと大人が共に育つ場所～

はじめに

このコンセプトブックは、沢岻こども園が大切にしたい考え方と、日々の教育・保育の中で判断の土台にしたいことを共有するためのものです。

保育に、ただ一つの正解があるわけではありません。だからこそ、私たちは、子どもの姿を中心に据えながら、園として大切にしたい方向性を共有し、対話し、確かめ合いながら保育をつくっていきたいと考えています。

そして本園は、子どもだけが育つ場所ではなく、子どもと大人が共に育つ場所でありたいと願っています。
子どもの姿に学び、迷い、考え直し、保育をつくり直していく中で、私たち大人もまた育っていきます。

この冊子は、子どもの育ちを支えるためのものでもあり、同時に、大人である私たち自身が学び続けるためのものでもあります。

教育・保育要領は、認定こども園として大切にする共通の土台です。
そのうえで、沢岻こども園の理念と教育目標は、その要領を本園としてどう受けとめ、どのような子どもの育ちを目指すのかを、園の言葉で表したものです。

また、7つのモットーは、その実現に向けて、保育者が日々の暮らしの中で大切にしたい関わり方や判断の指針を示しています。

今年度版では、これまでの考え方を大切にしながら、よりコンパクトに、よりつながりが見えやすく、より日々の実践につながる形へと整理しました。
先生一人ひとりが、この冊子をただ読むだけでなく、自分の保育を振り返り、考え、書き込み、実践につなげることを願っています。

「なんでやってるんだろう？子どもに何が育っているんだろう？
　子どもがどんな想いだったんだろう？何のためにやってるんだろう？」
と、自然と語り合え、子どもの話題が中心の職場にこれからもなることを願っています。

いつも、ありがとうございます。

2026年度　春

【目次】

コンセプトブックの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

子どもの権利と本園の保育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

園の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

教育目標と、育ってほしい子どもの姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

7つのモットー（保育者の日々の行動と判断の指針）・・・・・・・・・・・・・・・・5

職員同士で大切にしたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

保育の専門性①　子どもの姿を理解し、見立てる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

保育の専門性②　見立てを環境と関わりに変える・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

今年度のわたしの目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

1. コンセプトブックの概要

この冊子には、沢岻こども園の教育・保育の考え方を、次のようなつながりでまとめています。

子どもの権利
教育・保育を行う上での前提

教育・保育要領
制度上の共通の土台

理念
園が何を大切にし、どこを目指すのかを示すもの

教育目標
理念を、子どもの育ちとして具体化したもの

7つのモットー
その実現に向けて、保育者が日々どう関わるかの指針

保育の循環
子どもの姿を見つめ、学びを捉え、環境や関わりを再構築していく営み

2. 子どもの権利と本園の保育

　沢岻こども園では、子どもを未完成な存在としてではなく、今ここを生きる一人の人として捉えます。子どもはすでに一人の人であり、その思い、言葉、表現、選択、安心は尊重されなければなりません。

子どもの権利条約の考え方も踏まえながら、本園では次のことを大切にします。

大切にしたいこと

・子どもが尊重されること
・子どもが安心して育つこと
・子どもが思いや意見を表すこと
・子どもが自ら遊び、学び、参加すること

子どもの権利を大切にすることは、特別なことではありません。
それは、日々の言葉、まなざし、距離感、待つこと、聴くこと、環境のつくり方に表れていくものです。

　これらは特別な場面だけで守られるものではなく、日々の生活の中で、子どもが選ぶこと、表現すること、安心して過ごすことを支える保育として表れていきます。
　本園では、子どもの権利を大切にすることが、理念や教育目標を支える保育の前提になると考えています。

3. 理念
心と身体の自由な暮らし

沢岻こども園の理念は、心と身体の自由な暮らしです。

ここでいう自由とは、好き勝手にすることではありません。
私たちは、「自由」という言葉を、自らにあるものを大切にすることと、自らによる一歩を踏み出すことの両方を含むものとして捉えています。

自らにあるものを大切にする
・自分の思いを大切にする
・自分の言葉や表現を大切にする
・自分の身体や健康を大切にする
・相手の思いや存在も大切にする

自らによる一歩を踏み出す
・自分にできることを探す
・自分で選ぶ
・自分で始める
・振り返り、修正しながら進む

自由は、自分だけのものではありません。
自分に思いや願いがあるように、相手にも思いや願いがあります。
自分の自由を大切にすることは、相手の自由を大切にすることでもあります。
沢岻こども園では、自分も相手も大切にしながら生きることを、自由の大切な姿だと考えています。

私たちは、子どもたちが現在だけでなく、大人になったときも、自分の人生を自分で選び、進んでいけるように関わっていきたいと考えています。
そのために、園生活のすべての時間が、心と身体の自由な暮らしにつながるものであってほしいと願っています。

4. 教育目標

　理念である「心と身体の自由な暮らし」を、子どもの育ちとして具体化したものが、沢岻こども園の教育目標です。

教育目標

・すべての生活から愛情と自立・自律心を育てる
・すべての生活から想像力・創造力を育てる
・すべての生活から健全な心身を育てる

これらは、特定の活動や時間だけで育てるものではなく、
子どもが暮らすすべての時間の中で育んでいきたいものです。

育ってほしい姿

・自分なりの「より良い」を見つけられる子
・自分にできることを想像し・創造できる子
・心身が安定し、たくましく生活力のある子

主体性と当事者意識について

　沢岻こども園では、これらの教育目標を通して、子どもの主体性と当事者意識が育まれていくことを大切にしています。

　主体性とは、子どもが自分で感じ、選び、試し、表し、やってみようとする力です。
当事者意識とは、生活や遊びや人との関係を自分ごととして受けとめ、自分にできることを考え、関わろうとする力です。

　これらは、新たに別の目標を付け加えるものではありません。
本園の理念である「心と身体の自由な暮らし」を、子どもの育ちとして捉えたときに表れてくる大切な姿であり、教育目標の中に流れているものだと考えています。

　そのため私たちは、子どもが選べること、自分で決められること、試行錯誤できること、生活を自分たちでつくっていけることを大切にしながら保育を行っていきます。

5. 7つのモットー

〜保育者の日々の行動と判断の指針〜

沢岻こども園では、理念と教育目標を日々の暮らしの中で実現していくために、
7つのモットーを大切にしています。

1. 子ども中心・子どもスタートである

子どもの姿から考えます。
話し合いの真ん中には、いつも子どもを置きます。
大人の都合ではなく、子どもにとってどうかを考えます。

2. 子どもはすでにひとりの人である

子どもを尊重します。
言葉を近くで手渡します。
子どもと一緒に笑う保育者でありたいと考えます。

3. 子どもが選ぶ

子どもが選べる活動、選べる環境を保障します。
何をするかだけでなく、どのように関わるかも、できるだけ子どもが選べるようにします。

4. 子どもが自分で身につけ、腑に落ちる

子どもが自分で始め、試し、挑戦し、失敗し、試行錯誤する中で学ぶことを大切にします。
ただ教え込むのではなく、身体でわかること、納得することを大切にします。

5. 子どもの五感を揺さぶる

見るだけではなく、聴く、触れる、嗅ぐ、味わう、動く。
子どもが全身で感じる経験を大切にします。

6. 子どもを信じる

子どもには育つ力、考える力、やってみる力があります。
大人が手を出しすぎず、子どもの力を信じて待つことを大切にします。

7. 子どもがたまたま、必然に出会う

私たちは、子どもが思わず関わりたくなる環境を整え、成長や興味に応じて必要な経験に出会えるようにしていきます。

これらのモットーは、理念や教育目標に向かう中で、
保育者が日々の判断に立ち返るための指針です。

6. 職員同士で大切にしたいこと

子どもを大切にするためには、大人同士も互いを大切にする必要があります。
本園では、次のことを大切にしたいと考えます。

1. 子ども真ん中で考える
大人の都合ではなく、子どもにとってどうかを問い続けます。

2. 目的と方向性を大切にする
手段が先に立つのではなく、何のために行うのかを考えます。

3. お互いを尊重する
異なる意見を自然に言え、自分と違う意見も受けとめられる雰囲気をつくります。

4. チームで動く
一人ではできないことを、互いの得意を生かしながら形にしていきます。

5. 自分の意見を持ち、伝える
子どもに主体性を育んでほしいと願う私たち自身も、自分の考えを持ち、言葉にしていきます。

7. 保育の専門性①　～子どもの姿を理解し、見立てる～

沢岻こども園の保育は、子どもの姿を出発点に考えます。
保育者が先に答えを決めるのではなく、子どもの思い、興味、学び、育ちを見つけ、その意味を考えることから保育は始まります。

保育の専門性とは、子どもの姿を見つめ、理解し、解釈し、その見立てをもとに保育を考えていくことです。
つまり、子どもの姿をどう捉えるかが、保育をどうつくるかにつながっていくということです。

大切にしたい視点

・何に興味をもっているか
・何に夢中になっているか
・何に挑戦しているか
・どんな気持ちを表現しているか
・どんな役割を果たしているか
・自然とどう関わっているか

これらの姿には、子どもの学びや育ちが表れています。
私たちは、その姿を手がかりに保育を考え、次の関わりや環境につなげていきます。

TOWN法で子どもの姿を捉える

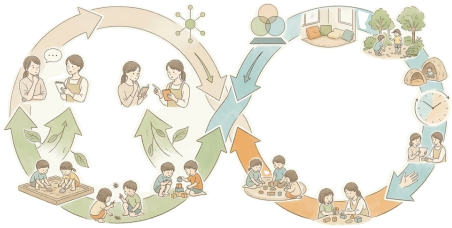
本園では、子どもの姿を見つめ、理解し、見立てていくための方法として、TOWN法を大切にしています。

Tweet
　　子どものつぶやきや思い
Object
　　子どもの姿そのもの、出来事、事実
Why / What / Wish
　　なぜそう感じたのか、何が育っているのか、どんな思いがあるか、何が育ってほしいのか
Next
　　次にどんな環境や関わりを考えるか

TOWN法は、子どもの姿を表面的に見るのではなく、その背景にある思いや学びを捉え、次の保育へとつなげていくための方法です。
私たちは、子どもの姿を丁寧に見つめ、考え、互いに伝え合いながら、見立てを深めていきます。

8. 保育の専門性②　～見立てを環境と関わりに変える～

ここでは、子どもの姿をもとにした見立てを、どのように環境や関わりに変えていくかを考えます。
本園では、子どもの姿から立ち上がる視点と、園として大切にしたい視点の両方を重ねながら、保育をつくっていきます。



子どもの姿からのねらい

子どもの姿から立ち上がってくるねらいです。
子どもが何に惹かれ、何を面白がり、どこで立ち止まり、どんな世界を広げようとしているかを捉えます。

教育要領等からのねらい

教育・保育要領や園の理念・教育目標から、子どもたちに出会ってほしい経験や育ちを考える視点です。
子どもの今に寄り添いながらも、要領や年間指導計画、期案などを参考に、保育者としての願いや見通しを持って環境を考えます。

環境構成とは

環境構成とは、物を置くことだけではありません。
空間、時間、素材、人との関係、声かけ、ルール、余白など、子どもを取り巻くあらゆる要素を見直し、再構築していくことです。

私たちは、子どもがたまたま、必然に出会う環境をつくっていきます。
偶然の出会いと、成長に必要な経験とが、子どもの暮らしの中で豊かに重なっていくように、保育を組み立てていきます。

うまくいかなかった実践からも学ぶ

環境を整えても、子どもが思うように関わらないことはあります。
そのような実践も、保育を見直す大切な手がかりです。
子どもは何に心を動かしていたのか。見立てや環境に、どのような見直しが必要なのか。
そうした問いを持ち、対話し、考え直していくことも保育の専門性です。

本物との出会いを大切にする

本園では、子どもが思わず心を動かされるような本物との出会いを大切にします。
本物の工具、質の高い画材、多様な自然物、手ざわりや重みのある素材、暮らしや文化を感じられる道具など、五感を通して世界に出会えるものです。

9. 今年度のわたしの目標

この冊子は、園の方向性を示すものでもあり、一人ひとりが自分の実践を考えるためのものでもあります。
今年度、自分は何を大切にしていくのかを書き込み、折にふれて見返していきましょう。

1. 子どもとの関わりで大切にしたいこと

2. 環境構成で意識したいこと

3. チームの中で大切にしたいこと

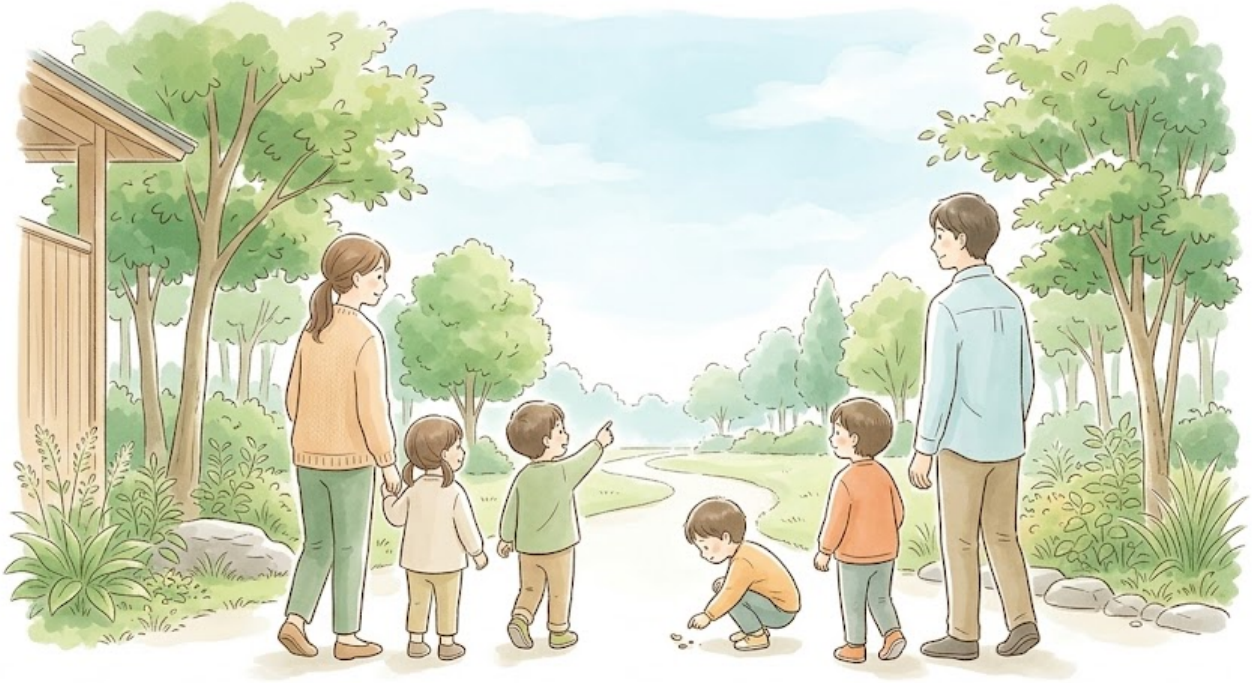
4. まず1学期にやってみること

5. 困ったときに立ち返りたいモットー

6. 1年後、どんな自分でありたいか

10. おわりに

コンセプトブックは、完成された答えではありません。
沢岻こども園が、子どもの姿から学び、語り合い、確かめ合いながら保育をつくっていくための、共通のことばです。

大切なのは、この冊子に書いてあることを増やしていくことだけではなく、日々の暮らしの中で、子どもたちの姿を見つめ、考え、選び直し、育てていくことです。

子どもも、大人も、日々成長していきます。
今年度も、子どもの話題が中心にある園でありたいと思います。
そして、一人ひとりの子どもが、心と身体の自由な暮らしを感じながら、自分らしく育っていけるよう、皆で保育をつくっていきましょう。